所報

美　濃　市　教　育　研　究　所
第３２２号平成２６年２月２１日発行
電　話（０５７５）３５－２３３４
ＦＡＸ（０５７５）３５－３１３４
e-mail：kyouikuken@city.mino.lg.jp

入賞おめでとうございます！成果を時空で広げよう！！

平成２５年度の美濃市教育実践記録の表彰式が２月１４日美濃市中央公民館で、西尾政徳教育委員長・研究所運営委員をお迎えして行われました。今年度は１５名の先生方の応募があり、下記の方々が受賞されました。 藤川久男教育長からは、

① 子どもの実態が分かる確かな実践である
② 今日的課題に取り組んでいる
③ 教科や領域の本質に迫っている
④ 試みのある実践である
⑤ 子どもの変容がしっかりと書かれている
⑥ 丹念な記録と考証が為されている

と、講評して頂き、今後この成果を校内・教員人生という横と縦の「時空」で広げていってほしいとのお話をして頂きました。その後、松田和彦小中学校長会長から、自分自身の大きなステップとしていってほしいとの祝いの言葉を頂きました。

・最優秀賞	・美濃中学校	中根	信也	教諭
・優秀賞	・牧谷小学校	林	由紀	教諭
・優秀賞	・中有知小学校	熊崎	達也	教諭
・新人賞	・美濃中学校	古田	大道	教諭
・新人賞	・美濃小学校	平林	明憲	教諭
・特別賞	・中有知小学校	堀	春美	講師

最優秀賞の実践の概要については、３ページに掲載させて頂きました。また、３月発刊の研究紀要には、最優秀賞・最優秀新人賞・学校所員の皆様の実践を掲載させて頂きましたので、ご一読頂き、参考にして頂ければと思います。また、実践記録のご指導やご講評を頂きました各校の関係の先生方や研究所指導員の先生に篤くお礼申し上げます。ありがとうございました。

美濃市教育研究所　嘱託所員会の実践から

「Ｑ－Ｕを生かしたいごこちのよい学級集団をつくるために」

嘱託所員：井上宏文先生（牧谷小）・山口充代先生（中有知小）・坂本昇先生（昭和中）

３年計画の１年目の研究では，先生方が問題と感じている「困り感」について調査し，その状態を把握した。２年目は市内全体でＱ－Ｕを行い，その結果を通して「学級集団づくり」がスムーズに行えるように研究をしてきた。さらに３年目の今年度は，

Ｑ－Ｕの結果から集団や個々の状態を分析し，それに基づき，学級経営上の課題に応じた意図的なスキルトレーニングを行えば，温かな人間関係を育み，いごこちのよい学級集団をつくることができるのではないか。

の研究仮説のもと、児童生徒への指導を継続し有効な手立てを追求した。（詳しくは研究紀要第２８号に掲載）

今年度の成果と課題

○Ｑ－Ｕの結果を分析し，適切なスキルトレーニングを行うことで，温かな人間関係を育み，いごこちのよい学級集団をつくることができ，児童生徒の変容に生かすことができた。

○Ｑ－Ｕの結果を分析し，学級の課題をしぼり，職員が共通理解を図ることで，児童生徒の実態に合わせたスキルトレーニングを継続することができ，温かな人間関係を作ることにつながった。

●スキルトレーニングが多様にあるので，指導者が学級集団の状態を適切に把握し、ねらいにあった適切なスキルトレーニングを実施する必要がある。そのためには、研修会などを設けて学年職員や指導者自身がスキルトレーニングを身に付けていく必要がある。

＊実践したスキルトレーニング一覧

ねらい	対象学年	スキル名	実践掲載ページ
コミュニケーション能力を高める	◎低学年以上	「ごろごろピカピカドカン」	Ｈ２５年・嘱１０
	◎中学年以上	「上手な話の聞き方 」	Ｈ２５年・嘱４
	◎高学年以上	「私のヒ・ミ・ツ」	
	◎中学生以上	「愛のメール」	Ｈ２４年・嘱１２
		「学級の貢献している仲間を探してみよう」	Ｈ２４年・嘱１４
		「温かい言葉かけ」	Ｈ２４年・嘱２１
仲間を知る	◎中学年以上	「お仕事ウォッチング」	Ｈ２５年・嘱１１
		「わたしはだれでしょう」	Ｈ２５年・嘱１２
コミュニケーションを図る	◎高学年以上	「イライラをどのように発散？」	Ｈ２５年・嘱８
		「これだけは許せないランキング」	Ｈ２５年・嘱１２
	◎中学生以上	「トシくんのおつかい」	Ｈ２５年・嘱１７
		「紫のバッグは誰？」	Ｈ２５年・嘱１７
		「紫の家は誰？」	

＊ＱＵにより学級の様相をとらえ、ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）などにより改善を図ることができる。今後は、各学校ごとの計画的なＳＳＴの実施が求められる。

教育実践記録最優秀賞作品（抜粋）

自ら意欲的に学習する生徒の育成

～技術科における課題追求の視点･個に応じた手立ての明確化～

美濃市立美濃中学校　教諭　中根　信也

１　主題設定の理由

美濃中学校の生徒の実態として、課題解決の見通しをもつことができれば意欲的に取り組むことができる姿がある。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着の個人差が大きく、それが学習意欲に反映している。つまり、課題解決の見通しをもてない、知識・技能の定着が弱い生徒は、中々授業に意欲的に取り組めない実態があり、仲間とともに学ぼうという意識に弱さが見られるのが課題である。

このような実態があるからこそ、生徒に課題解決の見通しをもたせる手立て、課題解決に向かう、生徒の実態に応じた手立てや、意図的な仲間との交流の必要性を強く感じる。

そこで、次のような研究主題を設定し、実践を行った。

２　研究仮説

生徒の実態に応じた手立てや学習形態を工夫した授業を積み重ねることで、本時のねらいを達成し、意図的な交流を積み重ねることで仲間と学ぶことのよさを感じ、自ら意欲的に学習する生徒が育成される。

３　研究内容

研究内容Ⅰ	**生徒の実態をとらえた指導計画の作成**
研究内容Ⅱ	**自ら意欲的に学習する生徒をうみだす単位時間の工夫**
研究内容Ⅲ	**学習集団を高める学習形態・評価の工夫**

４　実践

研究内容Ⅰ　生徒の実態をとらえた指導計画の作成

①生徒の実態を踏まえた指導計画の工夫。

【単元名：エネルギーの変換・利用と保守点検】

単元を通して、どう授業を構築していくか、前時と次時をどうつなげていくかを明確にした単元指導計画を作成した。

教科書では、発電方式の仕組みと、送電・配電のネットワークについて学習する流れになっている。

【単元の流れ】

教科書	改善後
電気を安定的に供給するための仕組みを理解することができる。	発電方式仕組みを理解し、それぞれの特徴と課題を考えることができる。 ※１
電気エネルギーの変換と利用方法を理解することができる。 ・熱エネルギーへの変換 ・光エネルギーへの変換 ・運動エネルギーへの変換	電気エネルギーの変換と利用方法を理解することができる。 ・熱エネルギーへの変換 ・光エネルギーへの変換 ・運動エネルギーへの変換
動きを伝達する仕組みとその特徴を理解することができる。	動きを伝達する仕組みとその特徴を理解することができる。
機器を安全に使用するためには、保守点検が必要であることを理解することができる。	機器を安全に使用するためには、保守点検が必要であることを理解することができる。
電気による事故の原因を知り、点検の重要性を理解することができる。	環境面・安全面・経済面・便利さから、白熱電球・蛍光ランプ・ＬＥＤを比較検討し、自分の生活に合った利用の仕方を考えることができる。 ※１
身の回りの機器について調べることができる。	

（中略）

研究内容Ⅱ　自ら意欲的に学習する生徒をうみだす単位時間の工夫

①本時のねらいを達成するための視点の位置付け。

②個に応じた手立ての工夫。

研究内容Ⅲ　学習集団を高める学習形態・評価の工夫

①意図的な学習形態の位置付け。

②自分の伸びを実感する自己評価・相互評価の工夫。

５　成果と課題

○課題を追求するための視点をもたせることは、生徒が見通しをもつことにつながった。

○仲間から評価してもらうことは、生徒の意欲につながり、さらに評価する側も正しく評価しようと、学習内容を踏まえて評価することができた。

●視点のもたせ方が教師主導になりがちなため、生徒主導で視点を明らかにする方途を工夫する必要がある。

●自分の伸びを実感し、次の意欲へつながる自己評価の在り方を工夫する必要がある。

（詳しくは、研究紀要・ＮＯ２８をご覧ください）

第２回教育研究所運営委員会　２月１４日、中央公民館で開催

Ｈ２５年度の活動報告とＨ２６年度の運営について審議して頂きました。運営委委員の方々からは

・先生方が実践論文を書かれることはすばらしい。論文を書いてからがスタートである。それからが自分を見直す力になる。
・和紙などの伝統のものづくりの大切さを伝える講座があるといい。
・命を守る安全指導の講座があるといい。市の防災訓練時の指導は大変役立つ。先生方が指導できるといい。
・研究所が先生方が学ぶ所になっていることが良く分かった。先生方もいろいろ受け持って大変だが、関係のある事だけでなく幅広く興味のあることを学んでほしい。子どもたちは、先生のおもしろい話をよく覚えている。
・アンケート結果で、講座への満足度の５段階が多いのがいい。
・命を守る教育は大切である。さらに命のすばらしさを感じさせていきたい。「かげろうの一生」の話を子どもたちによくさせてもらった。
・学級経営は大切である。実際に先輩の先生方の授業を見る事は大切である。ＱＵの結果からも学級経営と学力の相関関係がよく分かる。
・講座が先生方のニーズによくあっている。郷土の事を知る美濃学は大切である。
・防災教育については、講演会なども行ってきた。地震時など中学生が中心となれるように指導していきたい。
・発達障がいの理解への先生方の希望が多い。講座が増えてもいい。今日的な課題である。特別支援教育コーディネーターについては、大学などとの協力も考えられる。計画的に研修を積む必要がある。

などのご意見を頂きました。今後、校長会等と連携を図りながら、Ｈ２６年度の講座や諸事業について提案をさせて頂きます。３月所報にても、皆様にお知らせしていきたいと思っています。

情報バンクへのさらなる指導案の掲載をお願い致します。

文書キャビネットの指導案のホルダーには、今年度までに実践された授業研等の指導案が入れてあります。２月２０日現在、２６本ほどになりました。皆さんの財産を、今後もどんどん増やして、共有していきたいと思います。

各校で、個人情報等を検討されたあと、ＨＰ掲載承諾書とともに、研究所まで、どしどしお送り下さい。ホルダーがパンクする位になることを期待しております。

雑感　～　最近の若いモンは・・・　～

ソチオリンピックが始まっている。毎晩遅くなるのでなかなか見られないが。

スノーボードの角野選手（１７歳）の８位から始まって、平野選手（１５歳）の銀メダルや平岡選手（１８歳）の銅メダル。そして、圧巻は、フィギュアスケートの羽生選手（１９歳）の金メダルなどの活躍である。ジャンプの高梨選手（１７歳）は惜しくもメダルは逃したが、４位でもすばらしい結果である。みな１０代。とは言うが、３才や４才の頃から過酷な練習を通して努力してきた成果である。すでに１０年以上の努力をしてきたのだろう。

そりゃー運が良かっただけではと思っていたら、なんと、「スタートやゴール時のお辞儀で、スノーボードをスポーツとして認めてもらい普及させたい」「お父さんやお母さんに感謝」「金メダルを取ったからこそ復興の助けになる事がある」など、なかなか大人でも言えないような話をする。

私にも１０代の頃があったんだが？など思っていたら、ジャンプの葛西選手（４１才）が銀メダルを取った。いや、いや、彼もまだ若い。やはり世界で戦う若者は、私たちの様な年寄りの時空を超えている。がんばれ若者！！がんばれ現役！！